

# 町自連まつえ

人口: 201,154人  
 自治会数: 889  
 世帯数: 90,711世帯  
 加入世帯数: 54,340世帯  
 自治会加入率: 59.9%  
 令和2年4月30日現在

第23号 令和2年6月30日発行

発行/松江市町内会・自治会連合会



土石流により崩壊した呉市天応地区（中央に大木が横たわる）

特集  
視察研修  
1

豪雨による災害の恐ろしさ（呉市・広島市）

「この地に災害は無い」と過信！

平成三十年七月に広範囲で被害を受けた「西日本豪雨災害」の呉市と、二十六年八月線状降水帯の豪雨による「広島土砂災害」の広島市を視察。

中国地方は花崗岩（真砂土）で出来ており崩れやすく、広島県は平地が少なく急傾斜の山が多い全国で一番の土砂災害危険箇所が多い県です。（島根県は二位）

### 呉市を訪問

今回の災害で二十八人の犠牲者が出た呉市自治会連合会の皆さんに面会。呉市の市街地以外は山間地で、急な山が瀬戸内海まで迫っているが、住民は「まさか自分に被害が・・・」と避難をしなかったために多くの犠牲者を出したそうです。

天応地区も避難遅れ  
狭い谷の下流部に集落が密

集し、土石や流木が川をふさぎ、溢れ出た水が激流化し民家を襲い、避難しないまま十二人の死者が出ました。（写真）

### 安浦町の全域で被害

町内で見える山肌はどちらを見ても土石流による痕跡。海岸端に位置する市街地は、川の氾濫により多くの建物は一階まで水没。  
 四人の死者を出したこの悲劇を後世に伝えるため、写真集を作成し全戸に配布。



無数の土石流が発生した山（安浦町）



阿武山からの多くの細い谷から土石流が民家を襲い、手前の JR 可部線や国道 54 号線まで迫った

出典：国土地理院ウェブサイト  
([https://saigai.gsi.go.jp/1/h26\\_0816ame/hiroshima/naname/qv/5D5A0327.JPG](https://saigai.gsi.go.jp/1/h26_0816ame/hiroshima/naname/qv/5D5A0327.JPG))

### 広島市安佐南区

#### 八木を訪問

六十八人を亡くした復興の伝承館「復興交流館モン（山ドラゴン（龍）」を訪問。土砂崩れの有った阿武山は龍（土石流）のように暴れる山として昔から伝えられたあだ名です。しかし、住民は信じていなく「今回の豪雨でも避難しなかった災害だ」と島堀秀春館長は語りました。地名は災害の歴史を伝えると言われますが信用すべきです。



原形をとどめない自動車の山（県営住宅裏）

広島県はこの地区を昔から注意喚起していました。平地の少ない広島市は山際まで住宅が密集し、幾筋もの細い急な谷に土石流が発生し住宅を直撃しました。

訪問した両市とも「まさか自分に被害が」と過信。「空振りの避難を恐れない」ことが大切だと訴えられました。

松江は最近大災害が無く、安心していませんか。しかし、大地震の可能性が有ります。自主防災隊の強化や、非常持ち出し品の常備、市が配布したガイドブックを日頃から読んで災害に備えましょう。

### 視察研修 2

#### 交通・買物弱者の支援

交通・買物弱者の支援に取り組んでいる安来市広瀬町比田地区の「えーひだカンパニー（株）」を訪問しました。

比田地区は奥出雲町に隣接した中山間地で、百七十三世代、四百七十人が暮らし、高齢化率五十六％の過疎地。公共交通機関も無く、人口減少が続き、このままではますます過疎化が進む集落です。

比田を未来につなげるために、地域を活性化しようと住民がプロジェクトチームを結成し検討。結果、比田地区の活性化に取り組む住民出資の株式会社「えーひだカンパニー」を設立。課題となった一つの交通・買物弱者支援を生活環境部が担当し、軽車両を安来市から無償貸与。講習を受けた地元住民がボランティアで運転し、予約を受けた住民を自宅まで迎え、市広域生活バスの停留所まで送迎しま

す。

東比田地区には商店・病院が無く、西比田地区には商店が有るが病院が無い地区で、乗り継いで安来市内や奥出雲町へ通院や買物が出来、大変便利になったとのことです。



比田デマンド交通の「えーひだ」号

松江市内もコミュニティバスが運行していますが、乗客が空で走っているのを見かけます。玉湯地区では、乗車すると買物利用ポイント付与を実施し努力しています。他の地区でも運行中止にならないように多くの人に利用してもらいたいですね。

ごあいさつ  
松江市町内会・自治会連合会  
会長 勝部 廣三



令和元年度に  
寺本会長の後任  
として、松江市町  
内会・自治会連合  
会会長を引き受  
けてから一年が過ぎました。連合  
会・地域として、目的意識を持つ  
て、何が必要で、何が出来るのか、  
各地区の連合会長と地域の安  
全・防災、組織の活性化（組織加  
入率の向上など）について研修会

や先進地視察を行い、各地域で活  
かすことが出来るようにと活動を  
行ってきました。

しかし、今回の新型コロナウイ  
ルスによって、我々が最も強みと  
している組織力を生かした活動が  
出来なくなり、いままでの活動を  
見直し新たな発想により、行動計  
画を組み立てていくこととなると思  
いますが、まずは感染症の収束に  
向けて出来ることを優先に取り組  
みますので、今後とも連合会活動  
へご支援、ご協力をよろしくお願  
いいたします。

松江市長挨拶

松浦 正 敬



町内会・自治  
会、そして市民の  
皆様方には、日頃  
より松江市政に  
対しましてご理  
解とご協力を賜り厚くお礼申し  
上げます。

五月二十五日に「新型コロナウ  
イルス感染症緊急事態宣言」が解  
除されましたが、皆様のご努力に  
よって今の状況が現れているこ  
とに、関係者の皆様、市民の皆様  
に心から感謝を申し上げます。  
さて、本市では、本年三月に「第

五次松江市地域福祉計画・地域福祉  
活動計画」を策定し、地域福祉の推  
進に欠かせない最も重要な視点は  
「孤立を防ぐ」ことであると捉えて  
いるところです。町内会・自治会  
は、新聞の販売所と連携し、配達網  
を活用した高齢者世帯の見守り活  
動を行うなど、地域の実情に応じて  
取り組んでいただいております。

町内会・自治会におかれまして  
は、「新しい生活様式」に沿って、  
活動の見直しに苦慮されているこ  
とと存じますが、引き続き皆様の力  
で、松江の元気を取り戻していき  
たいと考えておりますので、一緒にな  
って頑張っていきましょう。

視察研修プロジェクト

令和元年度は、多くの地域  
で課題として抱えている「防  
災」や「交通・買物弱者の支  
援」をテーマに視察を行いま  
した。



八木の災害現場で説明を聞く



えーひだカンパニーの視察

松本光弘、亀城幸平、  
竹内保雄、野津厚、角田一雄

町自連の取り組み

「交通の維持・確保に向けて」  
日の丸バスの「米子・松江線」  
が九月末で廃止となることを  
受け、町自連では地区を超えた  
連絡会を結成しました。  
連絡会では、交通の維持・確  
保に向けて竹矢地区と東出雲  
地区とで話し合いを重ねてお  
り、今後、行政との折衝や調整  
を図っていききたいと考えてい  
ます。

角田一雄、引野正之

「町自連のホームページ」

各地区行事などを掲載した  
ホームページをご覧ください。  
「松江 町内会」で検索でき  
ます。



町自連ホームページ▶



松江市町内会・自治会連合会はこれからも様々な課題に取り組みますのでよろしくお願いたします。

(令和二年度役員一同)



会長  
勝部 廣二  
(玉湯地区)



副会長  
小數賀安富  
(法吉地区)



副会長  
亀城 幸平  
(鹿島地区)



副会長  
松本 光弘  
(朝日地区)



副会長  
竹内 保雄  
(雑賀地区)



常任理事  
森 正剛  
(津田地区)



常任理事  
折田 昌弘  
(城西地区)



常任理事  
中島 秀夫  
(川津地区)



常任理事  
川谷 一寛  
(古江地区)



常任理事  
福岡 弘倫  
(忌部地区)



監事  
安部 吉輝  
(八束地区)



監事  
角田 一雄  
(竹矢地区)



理事  
林 繁幸  
(八雲地区)



理事  
山本 茂樹  
(古志原地区)



理事  
白石 照雄  
(城北地区)



理事  
安田 勉  
(白濁地区)



理事  
門脇 勉  
(本庄地区)



理事  
熱田 幹裕  
(大庭地区)



理事  
川岡 秀雄  
(島根地区)



理事  
大西 高志  
(美保関地区)



理事  
玉木 克廣  
(大野地区)



理事  
田中 重隆  
(城東地区)



理事  
松崎 均  
(秋鹿地区)



理事  
石富 修  
(安道地区)



理事  
山本 啓行  
(乃木地区)



理事  
福田 信夫  
(生馬地区)



理事  
矢田 幸治  
(持田地区)



理事  
古藤 弘巳  
(朝酌地区)



理事  
引野 正之  
(東出雲地区)

### 編集後記

新型コロナウイルスによる災害は私たちの人生で戦後最大の災難ではないでしょうか。戦争を機に日本は大変身しました。同様に日本を考え直す機会だと思います。東京一極集中の見直し、家庭での過ごし方、地域での助け合いなど多く有ります。

今回の視察研修でも、他人事ではない、真剣に考えなければならぬと痛感しました。今、災害が発生したら避難所での受け入れ態勢、非常持ち出し品の準備など地区としても、家庭としても考えましよう。

「町自連まつえ」も多くの皆さんに読んでいただくように紙面を大幅に変更し、発行月も新メンバーが出そろう六月にしました。今後ともご愛読お願いいたします。

(編集)「町自連まつえ」広報担当  
(松浦正明・野津厚・折田昌弘)  
町自連事務局 Ⅷ五五―五六一六九  
(松江市市民生活相談課内)